

■10月30日

那覇空港に航空機整備基地 県、用地確保向け国と交渉

県は21世紀ビジョン基本計画で臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点形成を目的に、航空機整備基地の設置を掲げていて13年度予算で調査費を計上している。

那覇空港内は敷地が狭く、用地確保が課題となっていたが、那覇空港内の航空自衛隊地対空誘導弾パトリオット(PAC2、PAC3)用地の一部に民間航空機を整備する「航空機整備基地」を建設する方針を固め、防衛省、国土交通省と用地確保に向けた交渉を開始している。

県は2015年度中に運用を開始し、300人の雇用創出を見込んでいる。
防衛省は県の提案を前向きに検討し、国土交通省と調整している。

整備基地の面積は4万平方メートル(施設面積2万平方メートル)。関係者によると、建設費用は約100億円規模になる見通し。21日に基本設計業者の公募を開始した。

県などによると、全日本空輸(ANA)が進出を打診しているほか、日本トランスオーシャン航空(JTA)も既存の整備施設の拡充を求めている。

(琉球新報10月29日)

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-214516-storytopic-3.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-214516-storytopic-3.html>)

新千歳空港、発着枠30に拡大 北海道庁が検討

新千歳空港の24時間運用を巡り、北海道庁は深夜・早朝(午後10時～午前7時)の発着枠を現在の1日6枠から30枠程度まで増やす案の検討を始めた。

年内に千歳、苫小牧両市、周辺住民との地域協議会を開いて提示する方針。
高橋はるみ知事は3期目の公約で発着枠の20枠への拡大を掲げている。

格安航空会社(LCC)による深夜・早朝時間帯への就航希望が増え、道庁が4、5月に国内外の航空会社96社に需要を調査した結果、8社から24便の希望が寄せられていた。

新千歳の発着枠は地元の意向を尊重する形で国土交通省が決める。地元の合意は不可欠で、道庁は防音対策なども示し、理解を得たい考えだ。

(日経新聞10月29日)

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO61806000Z21C13A0L41000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO61806000Z21C13A0L41000/>)

関西国際空港:LCCターミナル開業1年 ピーチ、発着最多に

関西国際空港の格安航空会社(LCC)専用の第2ターミナル(T2)が28日に開業して1年を迎え、年間旅客数は250万人を突破した。

T2はピーチ・アビエーションのみが利用しており、第1ターミナルを含めた便数(国内線と国際線)も11月に初めて全日本空輸を抜き、関空で最多となる。

新関西国際空港会社によると、11月1日にピーチは香港便を1日2往復に増やし、全体で週188往復(国内132、国際56)となり、貨物便を含めた全日空の183往復を上回る見込みだ。国内の空港でLCCが最大の便数となるのは初めて。

新関空会社はLCCを成長戦略の中核に位置付けているが、T2は簡素な設計で施設使用料が安いのが特徴。関空に拠点を置くピーチは格安の航空券を売りにしており、8月時点でピーチは関空国内線の運航の35%を占め、「二人三脚の成長」(新関空

会社幹部)戦略が奏功した形だ。

(毎日新聞10月29日)
<http://mainichi.jp/area/news/20131029ddn008020029000c.html> (-> <http://mainichi.jp/area/news/20131029ddn008020029000c.html>)

JALグループ9月・2013年上期輸送実績

29日、JALグループの9月、2013年上期輸送実績が発表された。

9月の国際線旅客数は67万人、前年度比105. 7%、利用率79. 7%だった。
2013年上期の国際線利用実績は384. 7万人、前年比101. 8%、利用率76. 3%だった。

JALプレスリリース
http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxM01vbWRobHlYOYyOIEZJTkFmLnBkZg.pdf (-> http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxM01vbWRobHlYOYyOIEZJTkFmLnBkZg.pdf)

(2)国際線旅客方面別輸送実績

①2013年9月実績

		2013年9月							前年同月 利用率(%)
		旅客数	前年度比(%)	RPK(千人*)	前年度比(%)	ASK(千座席*)	前年度比(%)	利用率(%)	
JALグループ	太平洋線	154,013	103.6	1,171,296	103.4	1,463,761	108.6	80.0	84.1
	欧州線	62,584	101.6	575,364	99.2	691,499	99.1	83.2	83.1
	東南アジア線	252,323	107.7	920,396	109.7	1,141,449	103.9	80.6	76.4
	オセアニア線	12,390	100.1	96,734	100.5	118,212	99.8	81.8	81.3
	グアム線	13,354	98.4	34,359	97.7	43,344	90.6	79.3	73.5
	韓国線	65,983	88.1	75,419	90.0	103,982	91.9	72.5	74.0
	中国線	109,801	123.7	204,831	123.0	259,914	110.7	68.3	61.5
	合 計	670,652	105.7	3,078,587	104.9	3,862,382	104.6	79.7	79.4

②2013年度上期実績

		2013年 上期							前年同月 利用率(%)
		旅客数	前年度比(%)	RPK(千人*)	前年度比(%)	ASK(千座席*)	前年度比(%)	利用率(%)	
JALグループ	太平洋線	870,578	103.2	6,706,642	104.2	8,455,464	107.6	79.3	81.8
	欧州線	353,619	103.7	3,278,697	102.0	4,148,875	98.0	79.0	76.5
	東南アジア線	1,486,003	109.2	5,352,395	111.2	7,081,669	105.8	75.6	71.9
	オセアニア線	95,008	100.9	500,728	101.6	704,085	104.8	60.3	68.4
	グアム線	72,480	97.9	184,715	92.1	239,700	90.4	77.2	75.8
	韓国線	406,046	87.4	467,392	89.7	634,014	90.9	73.7	74.7
	中国線	591,654	94.9	1,111,082	95.0	1,765,155	105.5	62.9	69.9
	合 計	3,847,075	101.8	17,008,007	104.5	23,089,875	104.4	76.3	70.2

小松ーバンコク 2 社目 チャーター便、4 月にも

来年度、旅行大手エイチ・アイ・エス（H I S）が小松ーバンコクの双方向チャーター便を運航する方向となった。

同社が29日に小松空港国際化推進石川県議会連の訪問団に明らかにした。

バンコク市の航空会社ビジネスエアも来年度、複数回運航する方針を示しており、2社による就航が実現すれば、将来の定期便化に弾みがつく。

H I Sは小松空港に年2、3便乗り入れる計画で、第1便はタイの旧正月に当たる4月を予定している。
チャーター機は同社の航空子会社アジアアトランティックエアラインズの機材を予定している。

小松とバンコクを結ぶチャーター便はオリエントタイ航空が2003年2月、12月に運航した年2便が最多となっている。

日本政府観光局（J N T O）によると、円安の進行や7月からの観光ビザ免除で、タイの訪日旅行客は今年に入って急増している。

H I Sは今年、成田と関空で定期チャーター便を運航しており、小松に複数回チャーター便を乗り入れても一定の需要が見込めると判断した。

(北国新聞10月30日)

<http://www.hokkoku.co.jp/subpage/HT20131030401.htm> (->

<http://www.hokkoku.co.jp/subpage/HT20131030401.htm>)

羽田国際線増枠、日航にゼロ回答 国交省方針

来春に拡大される羽田空港の国際線発着枠をめぐり、日本航空が国土交通省に配分の見直しを求めている問題で、国交省は来週、事実上の「ゼロ回答」をする方針を固めた。

日航の申入書に対し、検討の経緯を説明するだけにとどめる見通し。

日航は、行政訴訟などには踏み切らないとみられる。

(朝日新聞10月30日)

<http://www.asahi.com/articles/TKY201310290687.html> (-> <http://www.asahi.com/articles/TKY201310290687.html>)

(日刊航空10月30日)

<http://www.da-news.co.jp/> (-> <http://www.da-news.co.jp/>)

高松空港、2013 年9 月旅客輸送実績速報

国内線旅客数は11.7万人、前年比103.7%、利用率63.8%。

国際線旅客数は7.6千人、前年比129.3%、利用率60.1%。

平成25年度高松空港旅客輸送実績 (H25年9月速報)

1 国内路線利用客

路線	区分	平成25年9月	平成24年9月	対前年度比	備考
羽田線	利用者数	108,628	104,643	103.8%	
	利用率	64.8%	63.4%	+1.4	
那覇線	利用者数	8,713	8,539	102.0%	
	利用率	53.8%	56.5%	△2.7	
チャーター便	利用者数	—	—	—	
	利用率	—	—	—	
国内路線合計	利用者数	117,341	113,182	103.7%	
	利用率	63.8%	62.9%	+0.9	

2 国際路線利用客

路線	区分	平成25年9月	平成24年9月	対前年度比	備考
ソウル線	利用者数	1,826	2,818	64.8%	
	利用率	40.4%	64.8%	△24.4	
上海線	利用者数	3,506	3,070	114.2%	
	利用率	74.9%	71.1%	+3.8	
台北線	利用者数	2,280	—	皆増	H25年3月21日就航
	利用率	65.6%	—	皆増	
チャーター便	利用者数	—	—	—	
	利用率	—	—	—	
国際路線合計	利用者数	7,612	5,888	129.3%	
	利用率	60.1%	67.9%	△7.8	

3 利用客合計

路線	区分	平成25年9月	平成24年9月	対前年度比	備考
総合計	利用者数	124,953	119,070	104.9%	
	利用率	63.5%	63.1%	+0.4	